



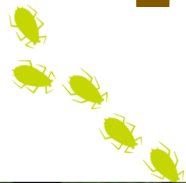
(K)



(Y)

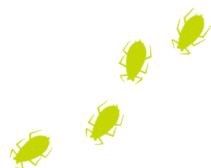
アブラムシに吸われたところが黄化した葉(上)と実(左)

アブラムシの被害にあうと…



(Y)

アブラムシによるすす病の被害。葉っぱに広がると光合成がしづらくなって生育が悪くなる



大丈夫、私にまかせて！

高知・芸西村 黒岩千夏ちゃん(11歳)

テントウムシを探すのが得意。お父さんのピーマンハウスでは、千夏ちゃんがつかまえてきたテントウムシが大活躍している。



う～ん

こんなふうになったら困るなあ…

お父さんの黒岩正充さん

ピーマン農家。なるべく農薬をつかわないで、虫で虫を退治する天敵農法に取り組んでいる。

テントウムシは畑のヒーロー

そんな困り者のアブラムシ退治に大活躍してくれるのが、テントウムシ。せっせとアブラムシを食べつづけてくれるテントウムシは、お父さんにとって宝物なんだ。

農薬をつかわずに栽培できるように、ピーマンにつく害虫を食べてくれる虫(天敵生物)をハウスに放すことで、安心・安全なピーマンづくりを実践している。ナスやピーマンのハウス栽培がさかんな高知県では、千夏ちゃんの家のように、農薬に頼らずに虫の力をつかって害虫退治している農家が日本で一番多いんだって。

ピーマンの害虫のひとつが、アブラムシ。アブラムシがたくさんつくると、汁を吸われて弱ってしまったり、アブラムシがおしりから出すベトベトした甘い液や糞が葉っぱに残ってカビで覆われて、すす病という病気になってしまう。



みてみて、いっぱいつかまえたよ～

おっ、千夏よくやった！

天敵を畑にスカウト



アブラムシを食べてくれる

テントウムシでピーマン畑のアブラムシ退治をしている千夏ちゃん親子から、テントウムシの活用方法を教えてもらったよ。

テントウムシをみつけよう！

テントウムシを1匹10円で販売

黒岩千夏ちゃんは、テントウムシをみつける名人。ちよつと歩いて探すだけでどんどん発見できちゃう。どうしてかというところ、お父さんが1匹10円で買ってくれるから、保育園のころからテントウムシ探しをしてきたのだ。

千夏ちゃんの家は、ハウスでピーマンを3反つくるプロ農家。お父さんの正充さんは、できるだけ

ペットボトルの上を切りとって逆さまにかぶせてつくった、テントウムシ捕獲用虫かご

